



原爆の子の像

戦後70年 原水爆禁止2015世界大会[広島]派遣 中学生からのメッセージ

8月4日(火)から6日(木)まで、広島県で「原水爆禁止2015世界大会」が開催され、赤平市から2名の中学生が参加しました。

戦後70年、同時に被爆から70年。戦争の悲惨さを体験した語りべが高齢化し、次世代への継承が課題となる中、赤平の中学生が広島で受け継いだ平和への思いをつづりました。



原爆ドーム



「平和の大切さ」
赤平中央中学校2年
山森 かこ さん

私は赤平派遣団として広島に行き、様々なことを学びました。まず始めに、折鶴平和行進に参加しました。平和を強く願う人が大勢参加していました。外国の人たちもいました。全世界の人たちが平和を願ってくれていると思うと、感動しました。

次に、被爆70周年原水爆禁止世界大会に参加しました。ここでは実際に被爆された方から、原爆が落とされてからの様子など色々なお話を聞きました。その方は、8月6日病院に向かっている途中で被爆されました。一瞬で周りの様子が変わっていて、何が起きたのか分からず、学校に行つたそうです。すると、何人もの下級生が手から爪や皮をたらして、苦しんでいたのです。その方は手当てをしたそうです。同じ学校の生徒が酷い状態なのに逃げずにいたという精神力の強さを尊敬しました。こんなに辛いお話をしてくれたことに感謝し、それを私たちが次の世代に伝えていきたいと思いました。

次の日、フィールドワークに参加しました。平和公園内にあるたくさんさんの慰霊碑を見て回りました。私はその中でも特に「峠三吉詩碑」が印象に残っています。「ちちをかえせ ははをかえせ」としよりをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ わたしにつながるにんげんをかえせ にんげんの にんげんのよのあるかぎり ぐずれぬへいわをへいわをかえせ」

私はこの詩を読んで、望んでもいないのに一瞬にして家族を失う辛さを感じました。みんなの人生を変えた原爆はもう使わないでほしいと強く思いました。

3日目、私は平和資料館で衝撃を受けました。原爆はたった3mの大きさだったからです。こんなに小さなものが広島を焼く野原にしたことにとても驚きを感じたとともに、悲しさも感じました。

この3日間を通して、戦争の苦しき、平和の大切さを改めて学びました。今回広島に行き、さらに戦争に対する怒り、犠牲者の人たちの悲しみ、原爆への衝撃、多くの感情が私の中にわいてきました。私が広島で学んできたことを多くの人に伝え、核兵器のない平和な社会が、この先もずっと続いていくことを願っています。



「みんなの願い」
赤平中学校2年
若林 優生 さん

私は赤平派遣団として、広島県で開催された原水禁2015世界大会に参加してきました。

1日目、私たちは広島に着いてすぐに折鶴平和行進に参加し、広島を歩きました。次に被爆70周年原水爆禁止世界大会に参加して、戦争反対を強く願う方々のお話を聞きました。どの話も説得力がとてもあり、色々と考えさせられました。その中でも特に印象的だったのが、実際に被爆された女性の方のお話でした。目の前で次々と亡くなっていく同じ学校の下級生。火傷などで水が飲めず苦しんでいる同級生。その光景を思い出すことは辛いけれども、未来を担う私たちと世界の平和な未来のために、核と戦争の恐ろしさを伝えてくださいました。核の恐ろしさや命の大切さについて、よくわかりました。

2日目、子ども慰霊祭では色々な都道府県の代表者が平和について思いを発表していました。みんな平和に対する同じ想いを持っていて感動しました。フイー

ルドワークでは、色々な慰霊碑を見てまわりました。たくさんさんの慰霊碑があることに驚くとともに、被爆された方の多さを改めて感じ、とても悲しくなりました。その後、メッセージfromヒロシマに参加し、原爆の恐ろしさについて参加者みんな考えてきました。初めて知った知識も多く、勉強になりました。

3日目、原爆の日には平和祈念式典に参加してきました。暑い日でしたが会場からあふれるほど人が多く、遠くから見ることしかできませんでした。また、広島平和記念資料館にも行きました。そこに展示されている被爆者の遺品・写真・実物大の模型をみたとき、原爆の恐ろしさを心の底から痛感しました。

この3日間で学んだこと感じたことを、私は絶対に忘れません。ここで学んだ事を自分のまわりの人に伝えていきたいです。みんなの願いは、「核も戦争もない世界」「平和な世界」。私たちは唯一の被爆国の国民として、しっかりと声をあげていかなければならぬと思います。

